



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。※内は、ロットNo.表示位置を示します。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

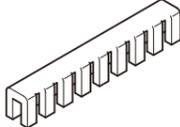
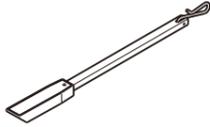
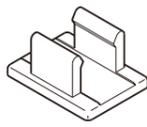
**▲注意**

- 漏電、感電や火災の原因になりますので、下記事項をお守りください。
  - ・電気配線工事は必ず電気工事の有資格者が行ってください。
  - ・AC100V配線はVVF1.6mm以上をご使用ください。
  - ・電源線、アース線は折曲げたり、挟んだり、キズ付けたりしないでください。
  - ・作動確認終了後、電源線、アース線を本体内に戻さないでください。又、電気工事の際、あまった電源線、アース線を本体内に戻さないよう、電気工事士さまにご連絡ください。
- 作動確認をする際は、シャッターの下に顔や手を出さないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- シャッター本体・シャッターボックスの脱落や漏水・変形による作動不良の原因になるおそれがありますので下記事項をお守りください。
  - ・必ず指定のねじを指定の本数使用してください。
  - ・シャッター吊束が□90mm以上の木材に固定されていることを確認してください。
  - ・本体サイドカバーの引っ掛け部を必ず本体固定金具に掛けてください。
  - ・ボックス引っ掛け部を天板の溝に差し込んでからねじで取付けてください。
- 取付け時およびスラットの横ズレを直す場合は、手袋をしてください。素手で行うとケガをするおそれがあります。
- 漏水の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・シャッター本体を取付ける前に、枠の周りに防水テープが張ってあることを確認してください。
  - ・入隅、ベランダなどに取付ける場合、排水経路がふさがれるため、ボックス(点検口)、ガイドレール、下枠・縦枠下部の水抜き穴を埋込まないでください。

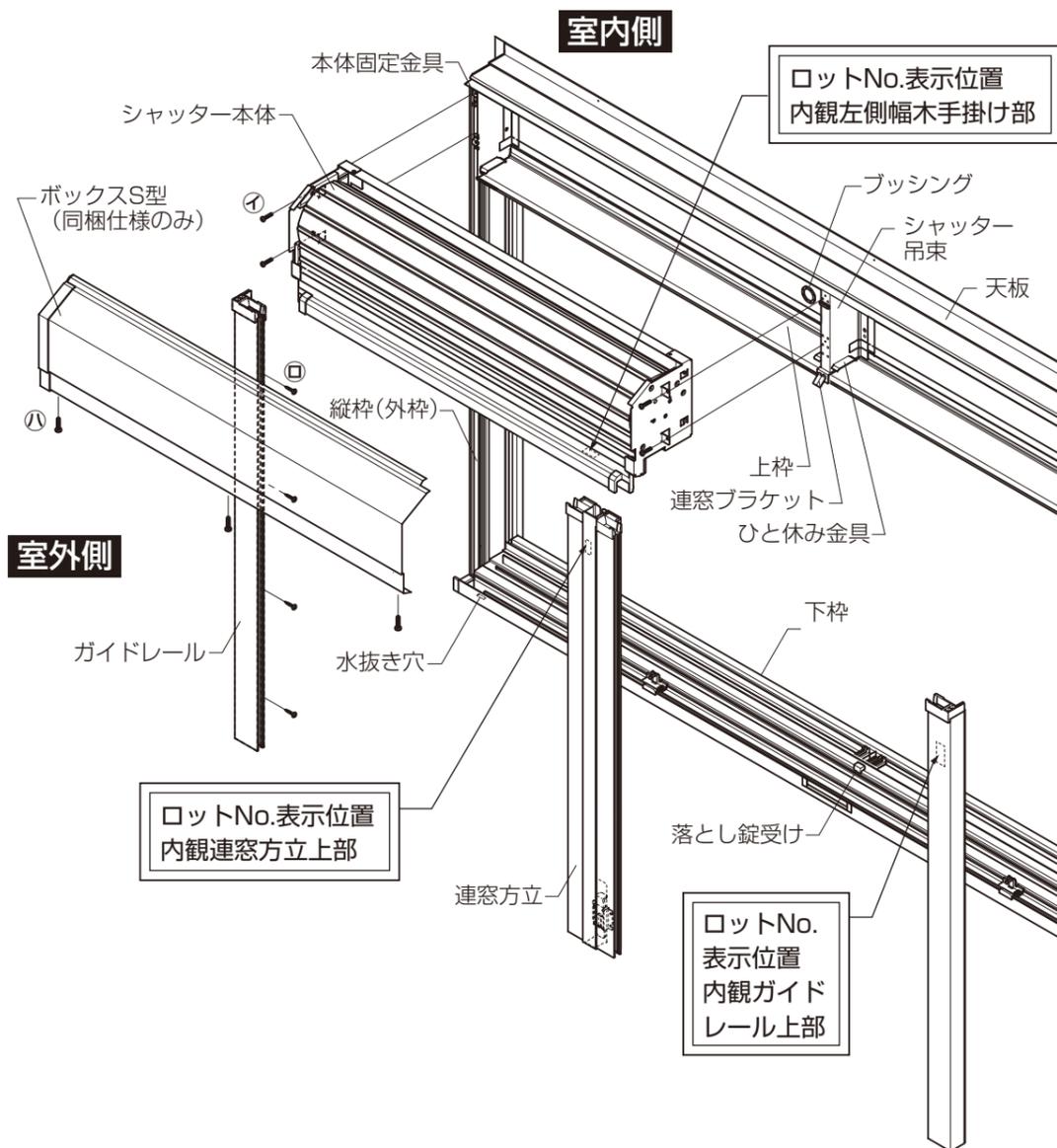
■取付け上のおお願い

- 本製品はAC100V専用です。他の電圧は使用しないでください。
- 電気配線工事は屋内配線との接続になるので、内装工事前に配線工事をご依頼ください。
- ※シャッターの電源線、アース線は外観右側になりますので、電気配線工事を依頼される際はご注意ください。
- 障害物にあたりると停止・反転する機能に誤作動が発生する場合がありますので、瞬間式の給湯器(瞬間的に電力制御を行う電機機器)やコンセント等の電源回路と同じにしないでください。シャッター専用の回路にしてください。
- シャッター本体取付けの際、作動確認のために仮設電源を使用する場合は、AC100V(定格電圧範囲内94V~106V)を使用します。事前に、電気工事士さまなどと打合わせの上、電源を用意してください。
- 通电後、必ず初期設定を完了させてください。
- シャッターを取付ける前に枠の水平・垂直および下枠の上下のソリが無いことを確認してください。取付け精度が悪いとシャッターの作動不良の原因となりますので、かい物などで調整してください。
- 本体取付けフィンの固定の際、天板の水平が出ていることを水糸などで確認して行ってください。シャッター作動不良の原因となります。
- 本製品を軒天内部に納める場合、必ず軒天点検口を設け、必ずボックス(点検口)およびガイドレールが外部から取外せる構造にしてください。外せない場合、メンテナンスができなくなります。
- 壁仕上げの際、ボックス(点検口)・ガイドレールを塗込まないでください。メンテナンスができなくなります。
- モルタル施工の際、ガイドレール・下枠にモルタルが付着しないようにしてください。
- モルタルはくり材はアルミ表面を傷めますので使用しないようにしてください。
- 枠部分の組立て・取付けには「サッシ枠 組立て説明書」、「サッシ枠 取付け説明書」をご覧ください。
- 一次側AC100Vとアース線の接続に必要なジョイントボックスなどの電設資材は、別途市販品をご使用ください。
- 背板のブッシングの取付け穴の大きさに合わせて、室内側へ電源線、アース線を通すための配線穴をあけておいてください。

■取付け部品・ねじ一覧表

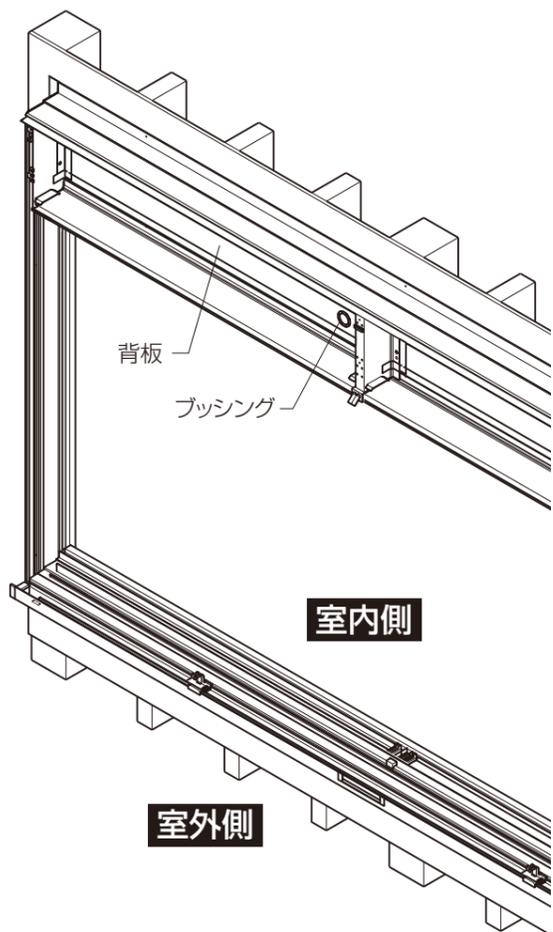
取付け部品			同梱部品				
本体取付け用	ガイドレール取付け用	ボックス取付け用	ブッシング	操作ハンドル		リモコン	
①	②	④(ボックスS型同梱仕様のみ)		操作ハンドル	操作ハンドルホルダー	表示シール	リモコン部品セット
 バインド小ねじ M4×12(D8.3)	 トラスタッピンねじ φ4×8(D9.4)	 バインド小ねじ 先付けM4×10					

■構成図



■取付け順序

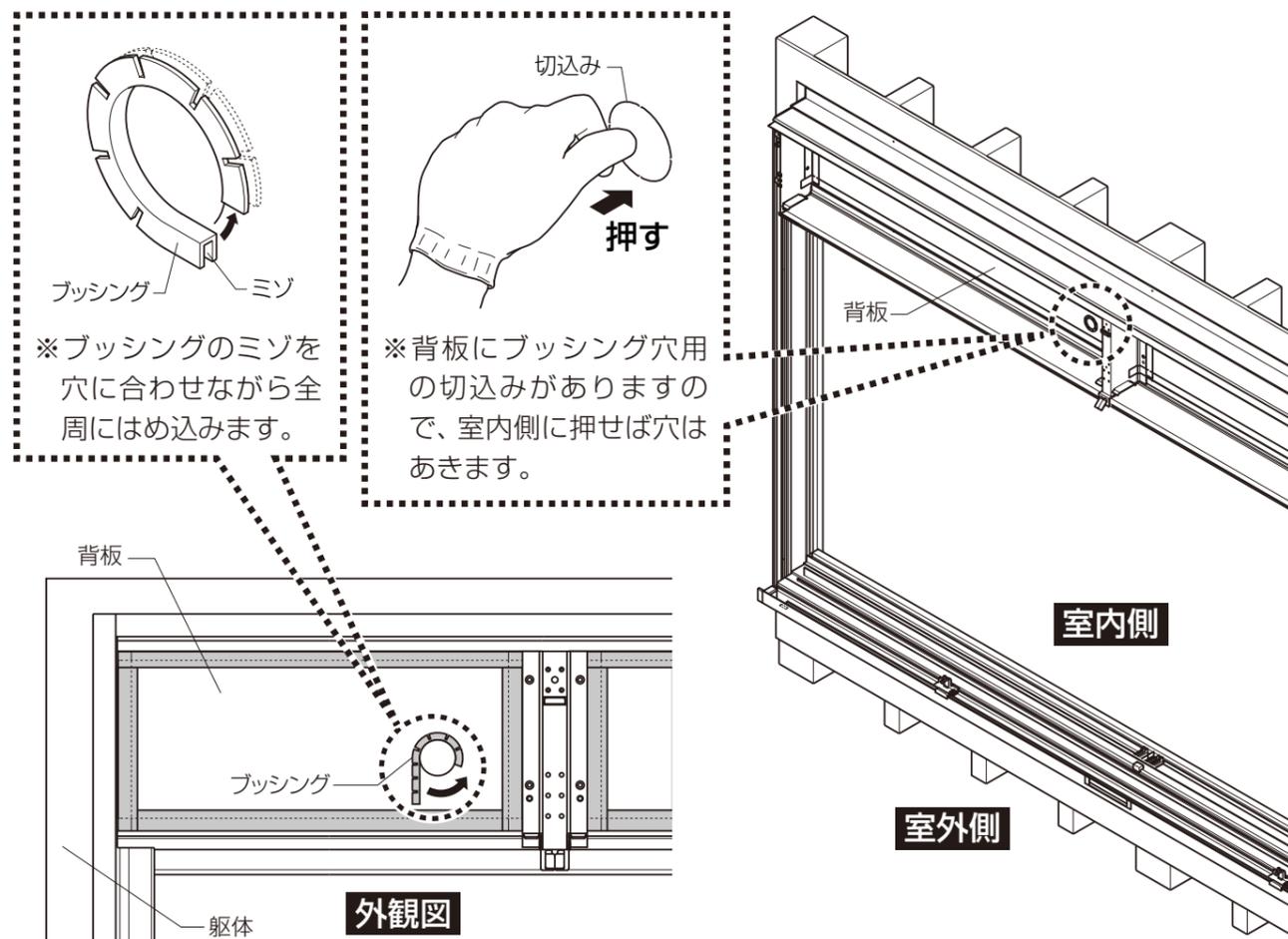
1 背板へのプッシングの取付け



■取付け詳細

1 背板へのプッシングの取付け

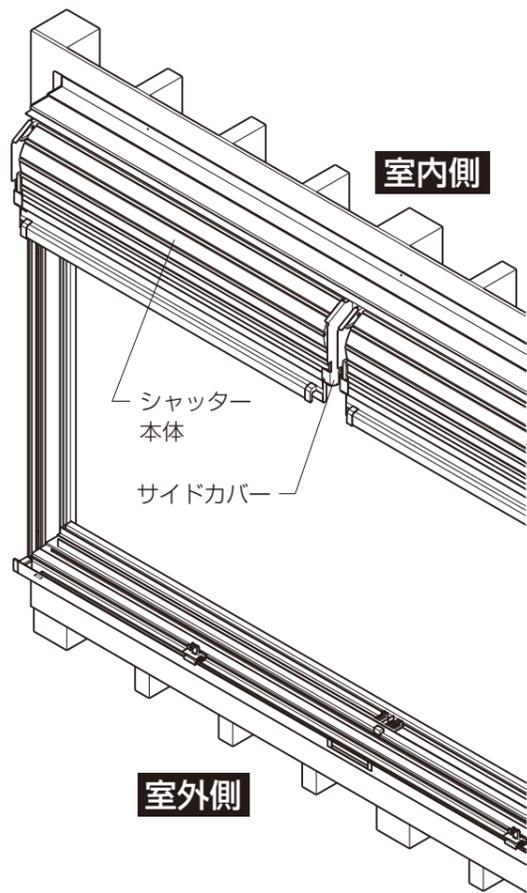
- ①外観右側の枠背板にプッシングを取付ける穴をあけます。
- ②プッシングをはめ込みます。
- ③はめ込み後、プッシングに浮きがないか確認してください。



▲注意

- 背板へのプッシングの取付けの際は、手袋をしてください。素手で行うとケガをするおそれがあります。

## 2 シャッター本体の取付け

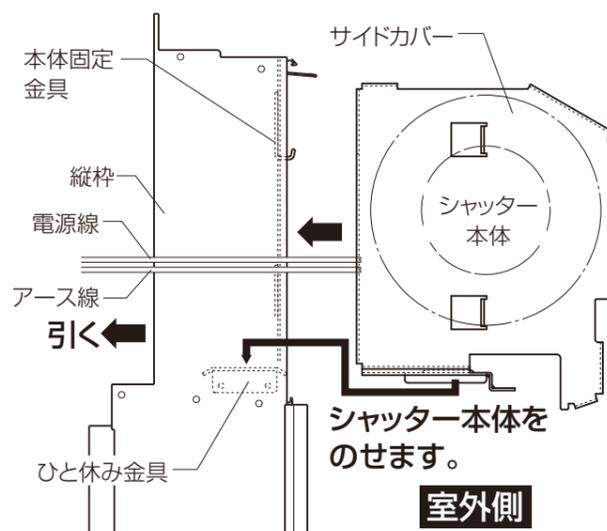


## 2 シャッター本体の取付け

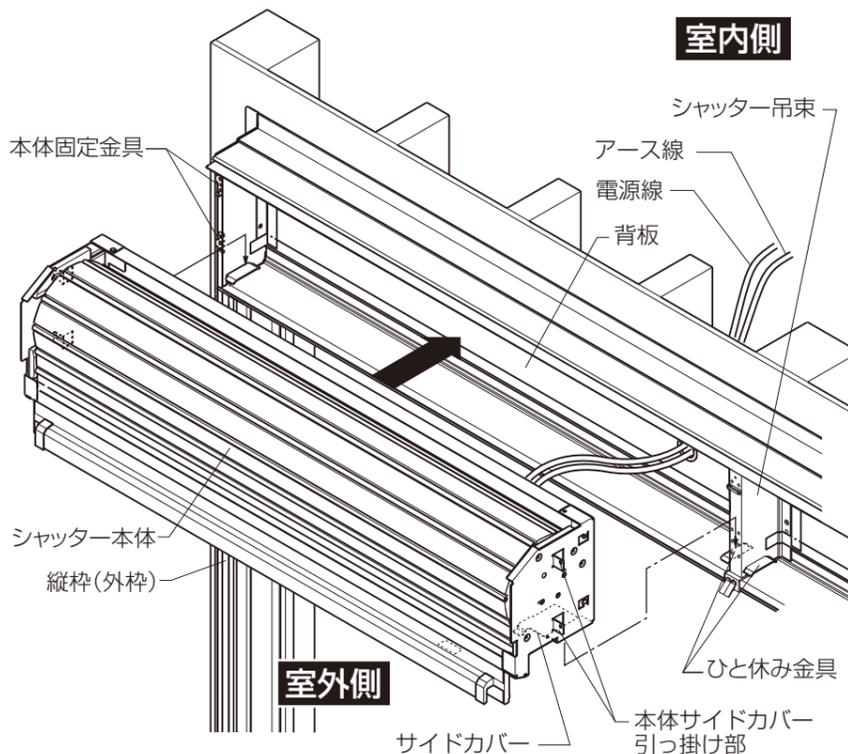
①電源線、アース線を配線穴から室内側へ通し、軽く引きながらシャッター本体を縦枠のひと休み金具の上にのせます。

### 注意

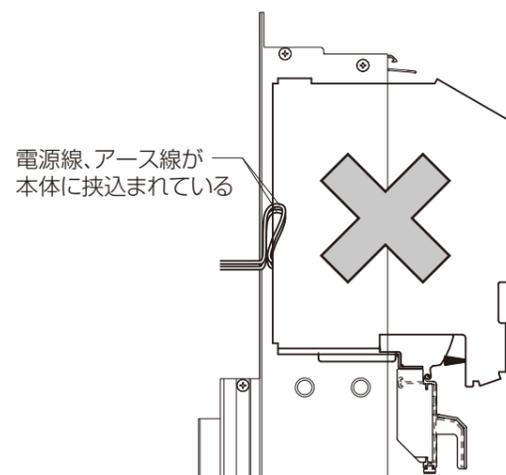
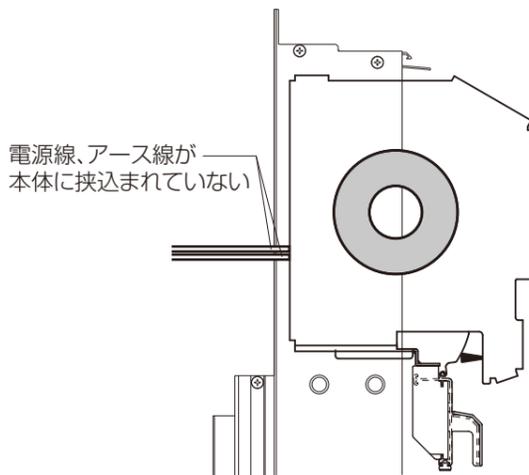
- 本体取付けの際は、手袋をしてください。素手で行うとケガをするおそれがあります。
- 本体サイドカバーの引っ掛け部を必ず本体固定金具に掛けてください。脱落によりケガをするおそれがあります。



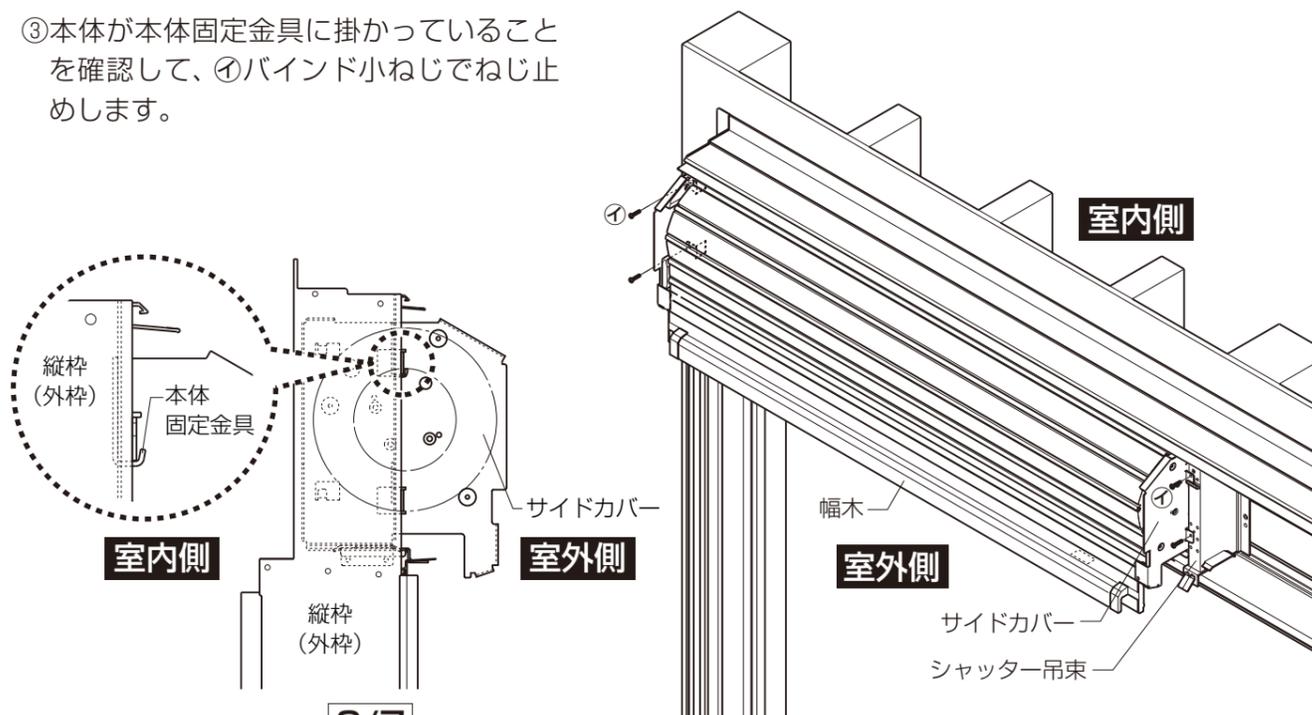
②電源線、アース線を軽く引きながら本体サイドカバーの引っ掛け部が本体固定金具にあたるまで押込んでください。



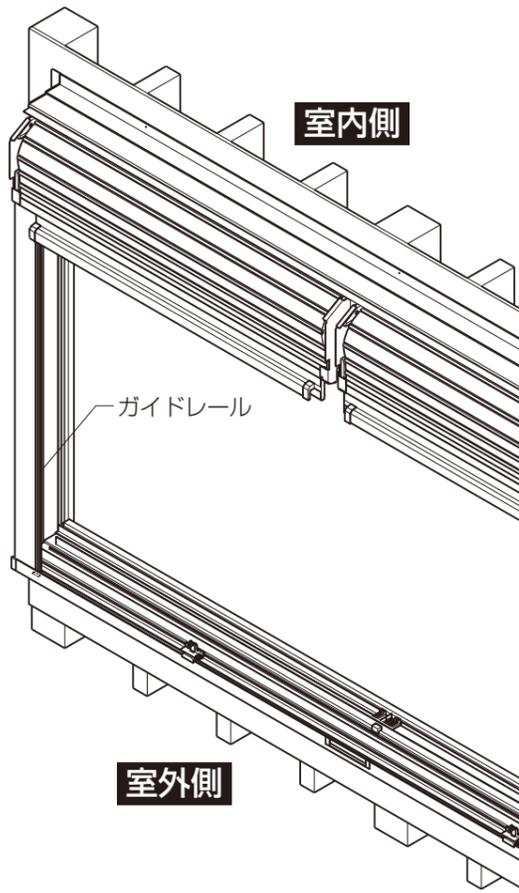
※電源線、アース線を本体と背板の間に挟込まないようにしてください。



③本体が本体固定金具に掛かっていることを確認して、①バインド小ねじでねじ止めします。

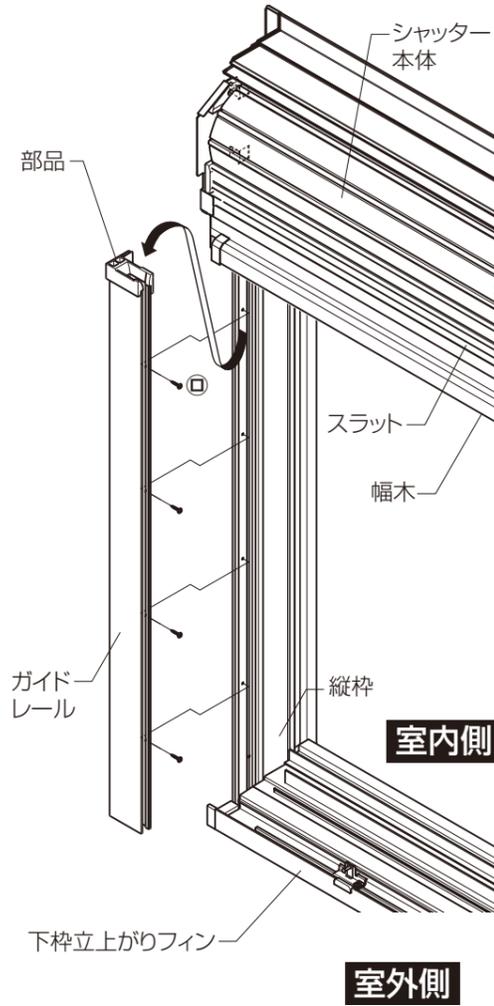


### 3 ガイドレールの取付け



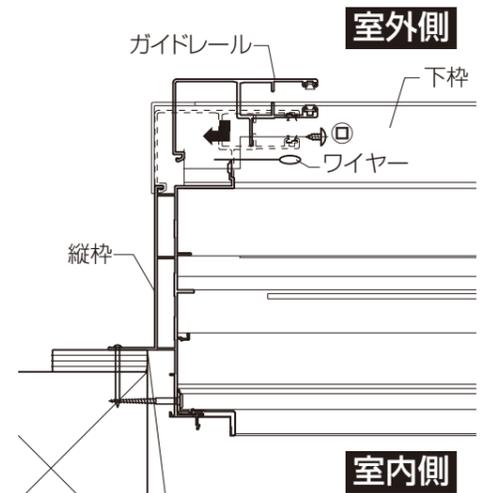
### 3 ガイドレールの取付け

- ①幅木を引下げ、ガイドレールの上端(部品側)に幅木を引込み、そのままガイドレールの上端を本体内へ挿入し、ガイドレールの下端が下枠立上がりフィンをこえるように内側へ入れます。
- ②ガイドレールをスライドさせ、縦枠(外枠)にはめ込み、㊸タッピンねじで固定します。

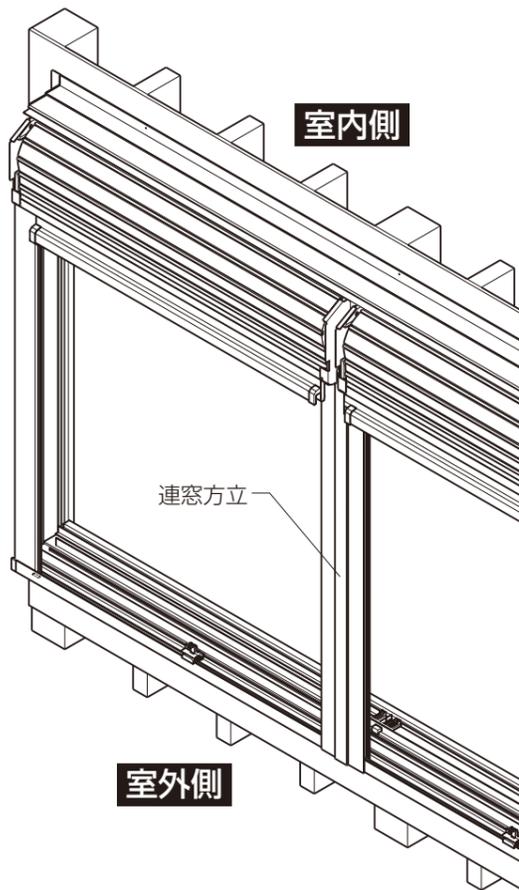


#### お願い

- ※ねじ山がつぶれるおそれがありますので、インパクトドライバーなどは使用しないでください。
- ※クラッチのワイヤーをガイドレールの外側に出してガイドレールを挿入してください。

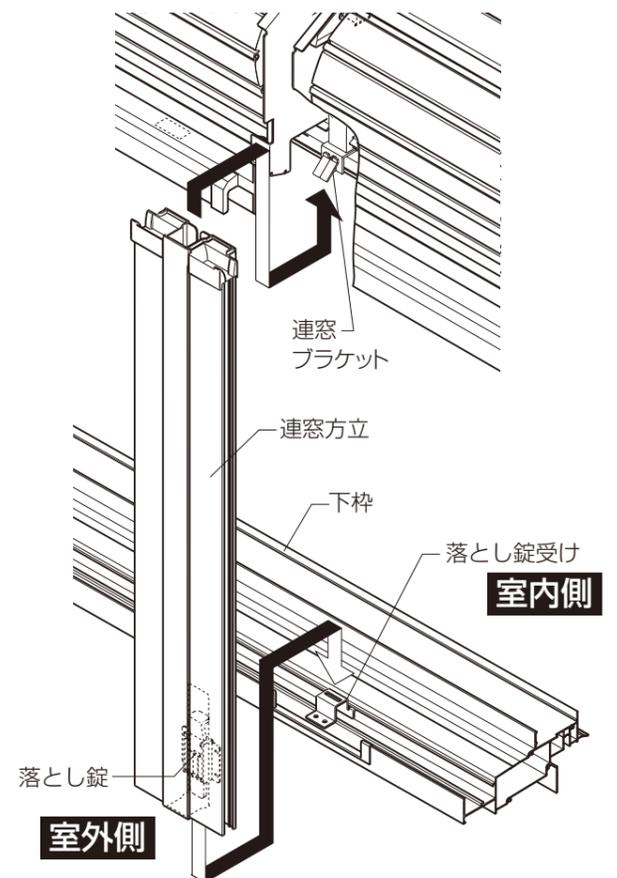
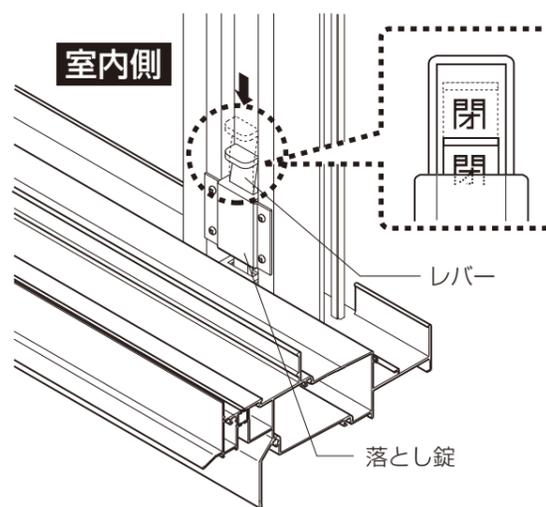


### 4 連窓方立の取付け

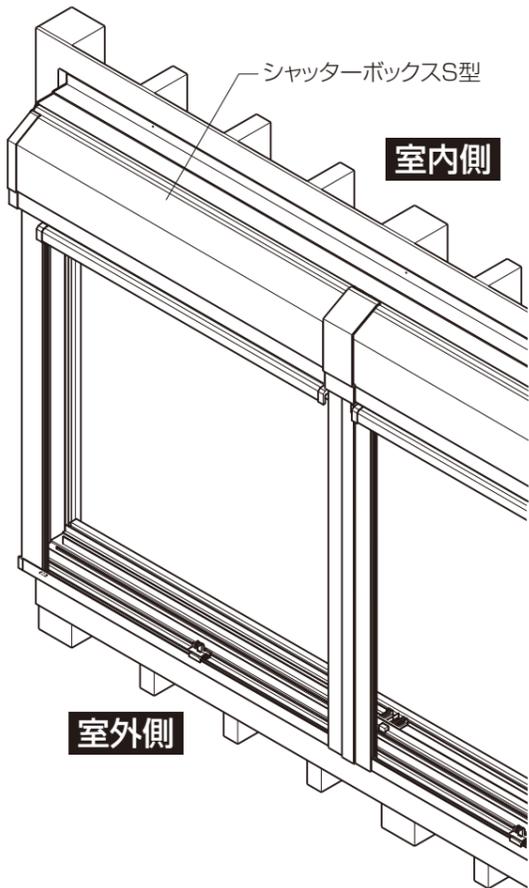


### 4 連窓方立の取付け

- ①幅木を引下げ、連窓方立の上部に左右の幅木を引込みます。そのまま連窓方立を押し上げ、連窓方立の上部を連窓ブラケットに差込みます。
  - ②連窓方立を室内側に引込み、落とし錠のレバー部の『閉』刻印が半分隠れるまでレバーを下げて、落とし錠受けに固定します。
- ※取付け完了後、開閉作動チェックをしてください。引っ掛かりなどの支障がある場合は、「7 ■ スラットの横ズレの確認」を行ってください。

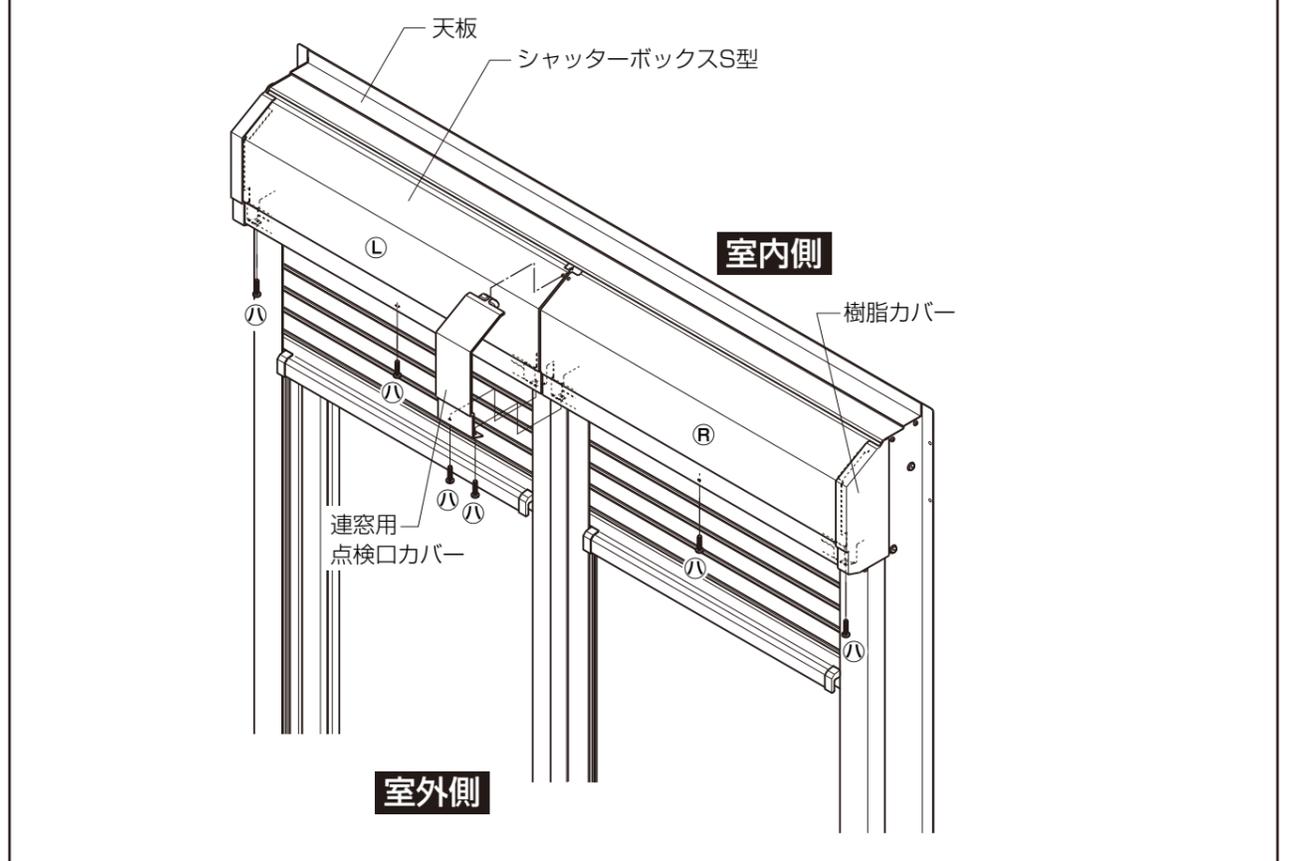


**5** シャッターボックスS型の取付け  
(同梱仕様のみ)



**5** シャッターボックスS型の取付け(同梱仕様のみ)

**【シャッターボックスS型】**

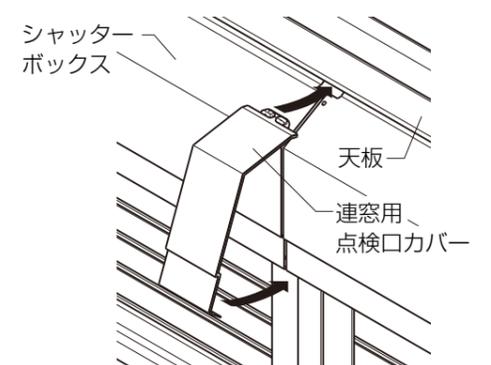
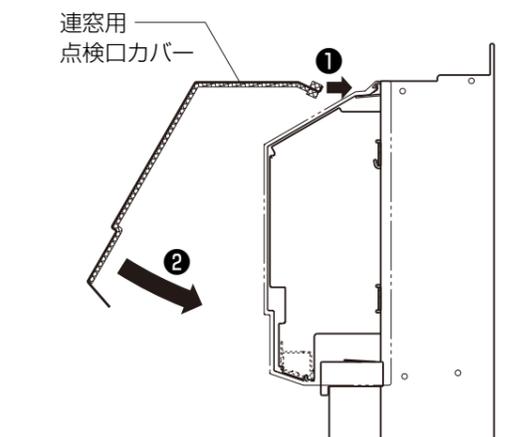
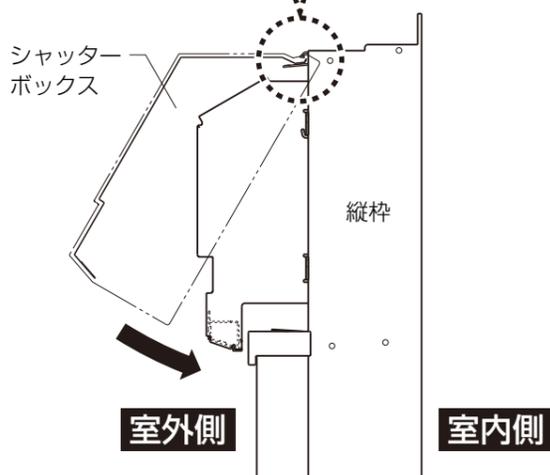
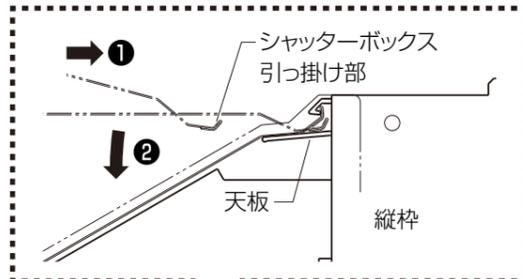


① シャッターボックス引っ掛け部を天板の溝にもぐりこませ、回転させるように取付けます。

② 連窓用点検口カバーをシャッターボックスと同様に回転させるように取付けます。

**▲ 注意**

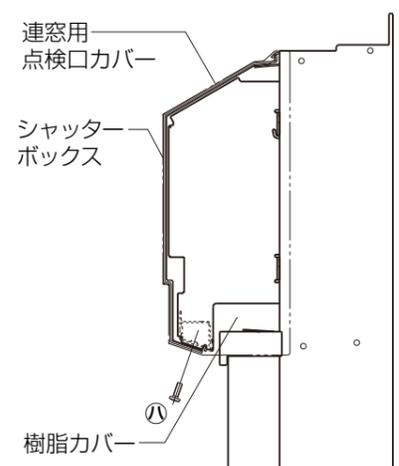
● ボックス引っ掛け部を天板の溝に差し込んでからねじで取付けてください。シャッターボックスの脱落や漏水・変形による作動不良の原因になるおそれがあります。



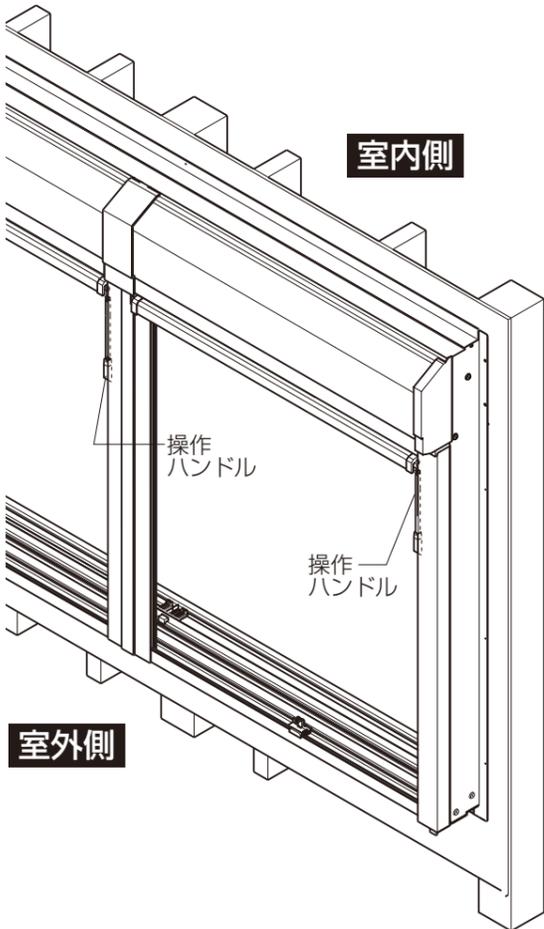
③ シャッターボックスの下側から本体へ①のバインド小ねじで止めます。

※ 連窓部分(中央部)は、連窓用点検口カバーも一緒にねじ止めします。

※ 連窓用点検口カバーの防水テープがつぶされていることを確認してください。

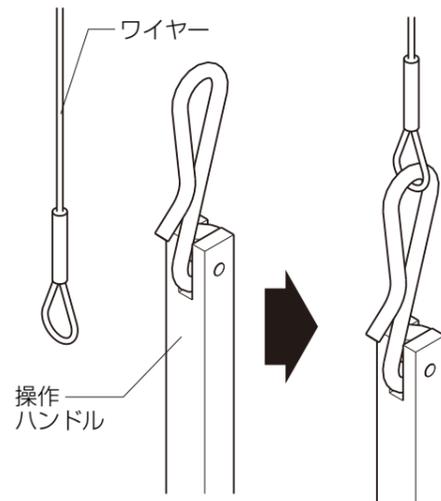
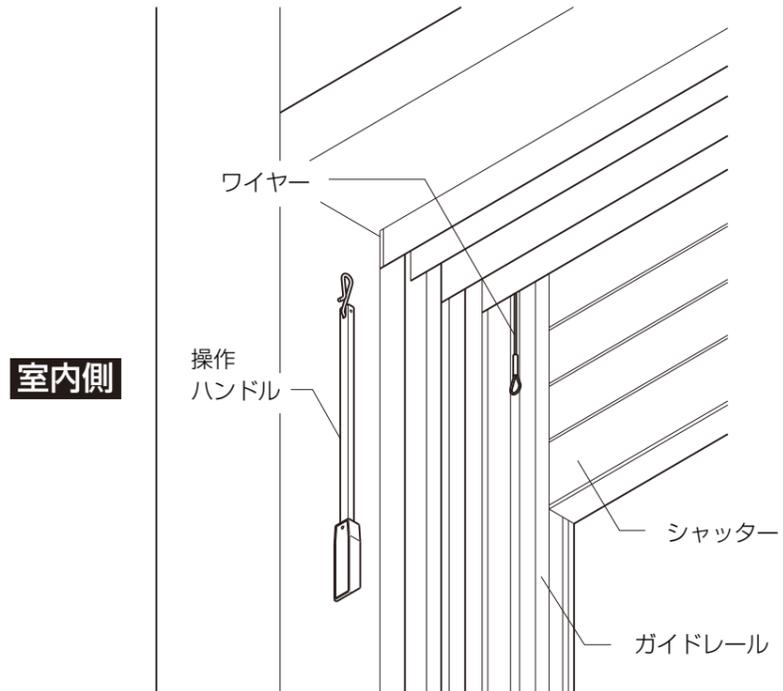


## 6 操作ハンドルの取付け



## 6 操作ハンドルの取付け

- ①ガイドレール上部からぶら下がっているワイヤーに操作ハンドルを引っ掛けます。  
 ※このときワイヤーを引っ張らないでください。停電時開閉機構が働き、シャッターが電動で動かなくなります。

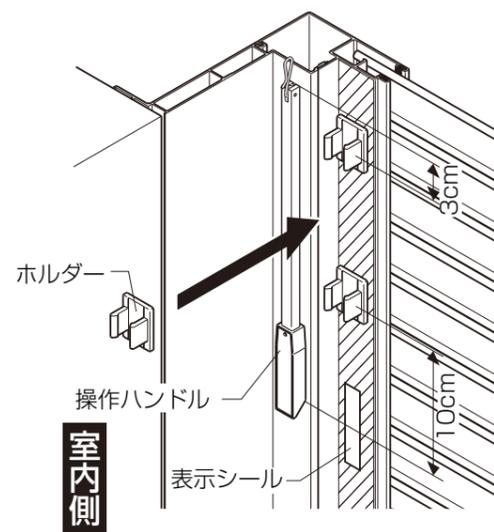


- ②ホルダー張付け面(下図斜線部)のホコリ・油分をふき取ります。  
 ③操作ハンドル上端から3cmおよび下端から10cmの位置に、ホルダーを張付けます。  
 ④操作ハンドルをホルダーに固定し、同封の表示シールを真下に張ります。

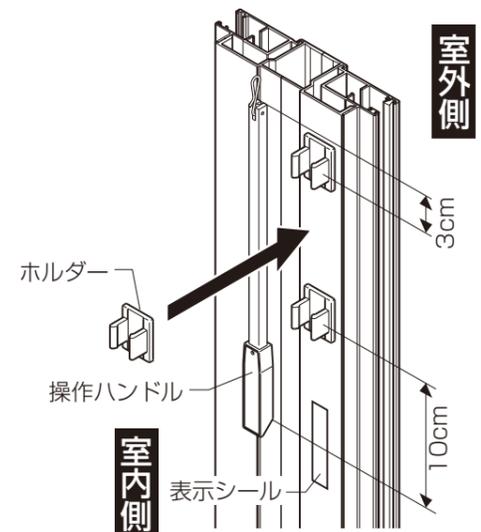
### お願い

※操作ハンドルは、必ず下図の向きでホルダーに固定しておいてください。  
 (操作ハンドルが引っ掛かり、シャッター開閉不良の原因となるおそれがあります。)

### ●縦枠部



### ●連窓方立部

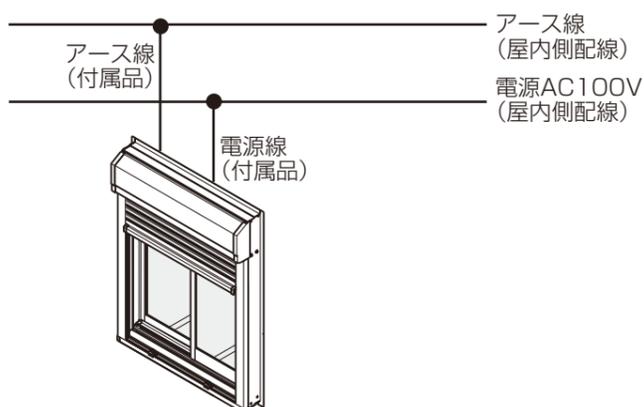


## 7 作動確認

### 7 全開／全閉位置の設定・作動確認

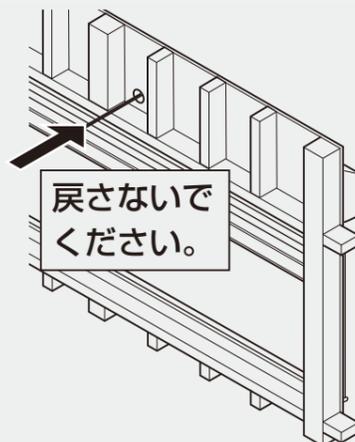
- ①電源線、アース線を仮結線状態にします。  
※仮設電源を使用する場合は、電圧が定格電圧範囲内(94V～106V)にあることを確認してください。
- ②設定、作動確認を行います。  
※設定・作動確認方法は、リモコンに同梱の説明書を確認してください。  
※設置を行ったリモコンが使えるシャッターがわかるように、リモコンの梱包袋にシャッター設置個所を記載して、リモコンを引き渡してください。

#### ■配線図



#### ▲注意

- シャッターが動き始めることがありますので、シャッターの下に顔や手を出さないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 電気配線工事は必ず電気工事の有資格者が行ってください。漏電・感電・火災の原因となるおそれがあります。
- 作動確認終了後、電源線、アース線を本体内に戻さないでください。又、電気工事の際、あまった電源線、アース線を本体内に戻さないよう、電気工事士さまにご連絡ください。漏電や火災の原因になります。



#### ●お願い

※通電後、必ず設定を完了させてください。

- ③設定完了後にリモコンを操作して、シャッターを開閉させます。引っ掛かりなど支障がないよう、スラットの横ズレの確認を行ってください。

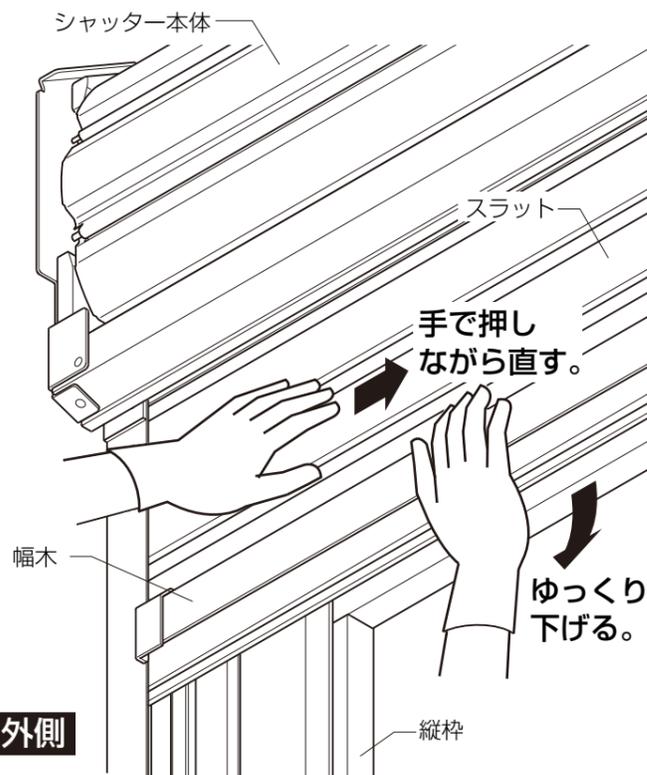
### ■スラットの横ズレの確認

- ①開口の1/3程度までスラットを下げます。  
※横ズレがある場合は、スラットを手で押しながら直してください。

#### ▲注意

- スラットの横ズレを直す場合は、手袋をしてください。素手で行うとケガをするおそれがあります。

- ※ガイドレール・本体にスラットが引っ掛からないようにしてください。
  - ※幅木が本体の中に巻込まれないようにしてください。
- ②スラットをゆっくり上げます。



## 8 ロック位置の確認と調整方法

### 8 ロック位置の確認と調整方法

- ※ロックの掛かりを確認してください。
- ①2、3回ロックの施・解錠をくり返し、掛かりと作動を確認します。
  - ②ロックの掛かりが悪い場合は、下枠に付いているロック受けのねじをゆるめてスライドさせ、ねじを締直します。

